

地域再生計画評価調書(地方創生推進交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	今治型産業クラスター構築計画	地域再生事業の名称	今治型産業クラスター構築事業	平成30年度評価
-----------	----------------	-----------	----------------	----------

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標	基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度				達成度についての分析	
		2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	最終年目標数値 2018年		
目標1 輸送用機械器具、繊維製造品出荷額	3,674 億円	目標	+147 億円 (3,821 億円)	+153 億円 (3,974 億円)	+178 億円 (4,152 億円)	+478 億円 (4,152 億円)	目標1:輸送用機械器具、繊維製造品出荷額の2017年実績値および目標2:繊維工業従業者数における2018年実績値が未記載である理由は、2018年の工業統計調査集計の確定値が公表されていないためである。(8月以降公表予定) 目標1については、工業統計調査の愛媛県下全体における2017年速報値(2019年2月公表)の輸送用機械器具製造品出荷額等が前年比+5.4%となっている点に鑑みて、本市においてもある程度改善されるのではないかと見込まれる。 目標2については、輸送用機械器具製造業従業者数は6,078人と前年比586人減少となっている。本社従業員は増加したものの、下請け事業者数が減少したことが要因と考えられる。繊維工業従業者数は、人材確保に向けた業界内での取組もあり、平成29年6月時点の数値ながら対前年比で大幅に増加している。 目標3については、最終目標値には届かなかったが、前年比として、101.7%となった。みなと交流センター「はーばりー」及びまちなか活性化サロン「ぷらっと」などの交流拠点を中心としたイベントや、まちカフェなどの商業機能の充実により通行量の増加が図られた。
		実績	▲248 億円 (3,426 億円)	—	—	▲248 億円 (3,426 億円)	
		達成度	▲168.7%	—	—	▲51.9%	
目標2 輸送用機械器具製造業従業者数 繊維工業従業者数	6,052 人	目標	+237 人 (6,289 人)	+237 人 (6,526 人)	+265 人 (6,791 人)	+739 人 (6,791 人)	
		実績	+709 人 (6,761 人)	▲97 人 (6,664 人)	▲586 人 (6,078 人)	26 人 (6,078 人)	
		達成度	299.2%	▲40.9%	▲221.1%	3.5%	
	3,056 人	目標	+12 人 (3,068 人)	+12 人 (3,080 人)	+13 人 (3,093 人)	+37 人 (3,093 人)	
		実績	+45 人 (3,101 人)	+111 人 (3,212 人)	—	+156 人 (3,212 人)	
		達成度	375%	925%	—	421.6%	
目標3 中心市街地の歩行者と自転車の通行量(人/日)	2,566 人	目標	+102 人 (2,668 人)	+102 人 (2,770 人)	+102 人 (2,872 人)	+306 人 (2,872 人)	
		実績	+41 人 (2,607 人)	▲38 人 (2,569 人)	+44 人 (2,613 人)	+47 人 (2,613 人)	
		達成度	40.2%	▲37.3%	43.1%	15.4%	

評価年度において実施した事業

事業名	繊維染色加工業の基盤強化事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(ア)海事とタオルのまちづくり 取組:①次世代の人材育成	事業費	3,000千円
事業概要	<p>今治タオルのブランド価値というべき厳しい品質基準を支えているのは、今治地域の繊維染色加工業者の技術力であるが、そのことはほとんど認知されておらず、人材不足や設備の老朽化等の潜在的な課題を抱えている。そこで、繊維染色加工業のイメージを向上させ、新たな人材の獲得と育成を図るために、愛媛県繊維染色工業組合を事業主体として、産官の連携による「繊維染色産業基盤強化検討委員会」を設置し、下記の事業を実施した。</p> <p>■「今治の色と香り」の発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「IMABARI Color Show2019」での発信に向け、(一社)日本流行色協会の大澤かほる氏の指導のもと、高校生を含む市民の方に参加型のワークショップを開催し、「今治の色と香り」を決定した。(H30.7.30開催 参加者数32人)</li> <li>■「IMABARI Color Show2019」の開催(開催期間:H31.3.19~H31.3.22 場所:今治市公会堂)</li> <li>・染色技術の特別展示、「今治の色と香り」の発信、デザイナーであるエマニュエル・ムホー氏監修の「1000色の波」というインスタレーションを披露した。(来場者数:1,153人)</li> <li>・インスタレーションを手掛けたエマニュエル・ムホー氏をはじめとする、「IMABARI Color Show2019」に関わった専門家によるトークセッションを開催した。(H31.3.22開催 聴講者数:100人)</li> <li>・今治地域の児童をはじめとした市民を対象に、染色工場の見学や職人とのランチミーティング、染色体験ができるワークショップなどを盛り込んだ、オープンファクトリーを開催した。(H31.3.22開催 参加者数20人)</li> </ul>				
事業効果	<p>□「今治の色と香り」の発信事業については、参加した高校生を含む市民に、色と香りの関係を学んでもらい、「IMABARI Color Show2019」開催に向けた機運醸成を図るとともに、繊維染色加工業への理解促進を図ることができた。</p> <p>□「IMABARI Color Show2019」においては、インスタグラムにおける「インスタ映え」を通じた、高いPR効果や、来場者による情報発信を含め、普段触れることのない繊維染色加工業に対するイメージアップを大幅に図ることができた。また、同時に実施した繊維染色工場的一般見学会や染色体験においては、今治地域の児童をはじめとした市民に対して、繊維染色加工業に対する理解促進を図るとともに、子どもたちに対するキャリア教育へ繋がる、効果的な事業を実施することができた。</p>				

事業名	バリチャレンジユニバーシティの開催	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:①人材還流・人材育成・雇用対策	事業費	650千円
事業概要		<p>市内の高校生、今治市出身の大学生を中心として、県内外から多くの若者が今治市にて一堂に会し、FC今治のアドバイザーボードメンバーや市内企業の若手社会人とのセッションを通じて、地域を牽引する人材育成や若者が果敢にチャレンジできる「学びの場」づくりのために、フィールドワークを含むワークショップを開催した。</p> <p>■開催日時:平成30年8月17日～19日 ■開催場所:みなと交流センター ■主催:バリチャレンジユニバーシティ実行委員会 ■参加人数:55名(応募総数228名)</p> <p>■ワークショップテーマ:「スポーツの力でどうやって活気に満ち 人が集まってくる街にするか」(※別紙「報告書」参照)</p>			
事業効果		<p>50名の募集定員に対して228名の応募があり、岡田武史氏の人的ネットワークにより錚々たるボードメンバーが講師として参加する等、今治市に大きな注目が集まる事業となった。三日間という短期間でのワークショップ(市内フィールドワークを含む)開催となったが、高校生から社会人まで世代を超えた多様な交流の中で、若者の感性による提案から、新たな起業のチャンスや今治ブランドの価値を高めるアイデアが生み出された。またワークショップのファシリテーターとして、市内企業の若手社会人にも参加いただくことで、市内企業のネットワークづくりやリーダーシップ醸成にも資する事業となった。</p> <p>■参加者住所内訳:県内23名、関東17名、近畿2名、中国4名、その他9名、■参加者所属内訳:市内高校生10名(18.2%)、大学生30名(54.5%)、社会人15名(27.3%)、■マスコミ報道 7件</p>			
事業名	いまばりシティクライヤー設置事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:④シティプロモーションの推進	事業費	3,185千円
事業概要		<p>都市部への情報発信の機会が多い市民等を、「いまばりシティクライヤー(今治市の魅力や情報を発信する市民)」として任命し、本市の産業、観光及び文化等の魅力をそれぞれ独自の方法で全国に拡散してもらうことで、本市の知名度及びイメージの向上を図る。平成30年度は、引き続き就任いただいている各界著名人の方にいまばりシティクライヤーとして活動していただくとともに、平成29年度から開始された一般公募も継続して実施し、一般クライヤーの方から年2回の活動報告を受けた。併せて昨年同様に市内高校卒業生へシティクライヤーカードを配布し、シティクライヤーの活動協力依頼も行った。また新たに今治の町並みや歴史風土等を紹介したフリーペーパーを作成した。</p>			
事業効果		<p>平成28年度に依頼した20名の今治縁の著名人に、人的ネットワークを活用して引き続き活動いただくとともに、平成29年度に一般公募によってシティクライヤーとなった19名に加えて、今年新規で応募いただいた3名にシティクライヤーとして活動をいただいた。以上から、より多様な相手方へのPRが可能となり、情報発信力が向上したことに加え、一般公募によってシティクライヤーに登録いただいた方から、活動を通じての意見等を報告してもらうことで、今後のシティプロモーション活動に資する情報収集を行うことができた。さらに市内高等学校卒業生にシティクライヤーカードを配布したことで、愛郷心を育むとともに、若者のフットワークを活かした情報発信が行われた。また新たに「今治の後世に残したいもの編」としてフリーペーパーを作成したことで、今治に残る歴史や伝統、文化を市内外に発信することができた。</p> <p>■登録者:岡田武史(株)今治・夢スポーツ代表取締役会長)、伊東豊雄(建築家)、MAYA MAXX(画家)、青野慶久(サイボウズ株)、檜垣幸人(今治市海事都市交流委員会会長)、近藤聖司(今治タオル工業組合理事長)、徳永純司(パティシエ)、他(平成28年度新規登録者20名、平成29年度新規登録者19名、平成30年度新規登録者3名、合計登録者42名)</p> <p>■クライヤーカード配布数:シティクライヤーへの配布 1,000枚(シティクライヤー1人あたり100枚(追加印刷含む)) 市内高等学校卒業生への配布 14,720枚(市内高等学校卒業生1人あたり10枚)</p> <p>■シティプロモーションフリーペーパー(「今治スタイル」)作成数:12,000部(原本添付:「今治スタイル」後世に残したいもの編 等)</p>			

事業名	東京オリンピックに向けた 今治タオル等プロモーション事業	総合戦略における 位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:④シティプロモーションの推進	事業費	32,950千円
事業概要		2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会が今治タオル等、「今治」をプロモーションする機会ととらえ、「オール今治」体制でのシティプロモーションを行うために、本市の産業クラスターおよび魅力ある地域資源を相互に関連付け、今治地域としてのブランドイメージを構築することで、効果的なプロモーションにつなげることを目指す。「今治」の新たなブランドイメージを構築・発信していくために、今治タオルのブランディングに携わった佐藤可士和氏を総合監修に招聘して、各地域資源に係る市内関係者に参画いただいて今治ブランド戦略会議を設置し、シティプロモーション活動等を実施する。			
事業効果		今治タオルのブランディングに携わった佐藤可士和氏を総合監修に招聘して、各地域資源に係る市内関係者に参画いただいて今治ブランド戦略会議を設置し、市民や今治に関わる人が共に魅力ある今治を市外に発信していく「アイアイ今治キャンペーン」を実施することとなった。キャンペーンロゴ・キャッチコピーを作成し、広く市民等に使用していただくことで「今治」を市外へ発信するとともに、キャンペーンの認知度を高めるために、公式HPやSNSによる情報発信や、PR用グッズを作成し配布した。また、今治の各地域資源のコラボレーション第1弾として「今治タオルカフェ(今治タオル×今治の食)」を実施した。ロゴ・キャッチコピーの完成とともにプレス発表会を行い、今治の新しい取り組みを市外にPRした。 ■今治ブランド戦略会議の開催:平成30年10月5日、11月28日、平成31年2月25日(年3回実施) ■キャンペーンロゴ・キャッチコピー(ii.imabari!(i'm into imabari!))、公式HP(iimabari.jp)、ロゴムービーの作成 ■キャンペーングッズの作成配布等:ポスター(市内協力店舗に配布)、のぼり旗(広小路、IC付近等に掲示)、スウィングバナー(テクスポート今治に掲示)、懸垂幕(市役所に掲示)、大型ステッカー(バス等に掲示)、チラシ兼ステッカー(イベント等で配布)、トートバッグ(イベント等で配布)、顔出しパネル(テクスポート今治等に設置) ■アイアイ今治キャンペーンのプレス発表会(及びプレス対象今治紹介ツアー):3月9日にテクスポート今治にて、ロゴ・キャッチコピーおよび今治タオルカフェのプレス発表会を実施した。 ■トライアルイベントの実施:今治タオル本店(テクスポート今治)に「今治タオルカフェ」を併設し、市内の食に関わる事業者(JAさいさいきてや、TORICO、時計台)のオリジナル商品を提供するコラボレーション(3月9日、10日、17日、24日)を実施した。			
事業名	食の今治ブランドづくり事業	総合戦略における 位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:⑥食の今治ブランドづくり	事業費	57千円
事業概要		今治を訪れた方に食における今治ならではの『おもてなし』を創造するために、これまで本市が「食と農のまちづくり」で培ってきた地産地消や有機農業をベースとした今治産の食材に魅力あるブランド基準を設け、ロゴマークの作成、販売促進、販路開拓、情報発信などを行うことを目的とし、今治の食に携わる農業者、漁業者、移住者、農協、直売所、食品関連業者、学識経験者等からなる「食のimabariブランド推進会議」を平成29年度に設立した。 平成29年度においては、推進会議を立ち上げ、委員間における本市の農林水産業に関する現状・課題の把握や地域ブランドの事例把握を行うことで、「食のimabariブランド」構築に向けた体制構築に取り組んだところであり、平成30年度における検討状況については下記のとおりである。  ○第1回会議(平成30年6月22日開催) ・「食のimabariブランド」のブランド認定開始を目指し、その第1歩として認定要綱・認定基準及び選考基準について事務局案を作成し、それについて委員間における意見交換を実施した。 ・認定基準については、「品質に重点を置くべき」という意見がある一方で、「良いものであれば緩やかな基準でも良い」という意見が出た。 ・認定にかかる審査を行う調査員制度について、「目的や必要性などを検討し直す必要がある」という意見が出た。 ・今後実施を検討している市民アンケートについては、「運用開始前にPRをかねて行ってはどうか」という意見が出た。			
事業効果		本市の食に携わる有識者が一同に会し、「食のimabariブランド」の運用に向けた認定基準や運営方法について、今後の具体的な検討を進めていくための意見交換を行うことができた一方で、認定基準の設定や認定審査のための体制づくりに向け、推進会議としての統一的方向性を確立するため、引き続き検討を継続していく必要がある。			

事業名	中心市街地活性化事業の展開	総合戦略における位置づけ	基本目標:4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策:(ウ)中心市街地の再生 取組:①中心市街地の再生	事業費	6,953千円
事業概要		<p>今治市中心市街地再生協議会を事業主体として、まちなか活性化サロンを中心とした交流スペースの活用と、空き店舗となった商業空間の活性化対策を検討し、商店街既存店舗の新陳代謝を促すため、商工会議所等と協力し創業・起業する意欲のあるものを支援した。また、中心市街地の価値向上に関する具体的な展開を進めていくための調査・研究を行った。</p> <p>■まちなか活性化サロン「ぶらっと」運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかでのイベント等観光情報や空き店舗情報等を収集分析し、情報を正確に提供するためのサービス拠点として、中心商店街(常盤町2-1-1)に開設したまちなか活性化サロン「ぶらっと」を運営した。</li> <li>・まちなか活性化サロン「ぶらっと」に地域おこし協力隊を配属し、“まちなか学”としてまち歩きツアーを年間6回開催した。(ツアー回数:6回、参加者:延べ116名)</li> </ul> <p>■まちなかの価値向上のための調査・研究事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の価値向上に関して、中心市街地の現状分析や課題の抽出、先進地の事例研究、まちづくりに関する団体等によるニーズ調査を通じ、「中心市街地の価値向上」に関する具体的な展開を進めるための調査と研究を行った。</li> </ul> <p>■まちなか移住交流推進事業費補助金(NPO法人 シクロツーリズムしまなみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地を交流拠点・観光拠点としての役割を果たすため、移住・定住・交流を推進する事業を実施した。</li> <li>・地域活性化を学ぶ学生、移住希望者を対象に、長期滞在できるサイクルオアシス総合拠点「シクロの家」を住まいとして提供し、お試し居住することで地域の風土に触れる機会を提供した。(訪問相談:35名、お試し居住者:7名、移住者1名)</li> <li>・「お試し居住」希望者が、今治市での働き方、暮らし方を体感する機会とするため、企画段階から参画する交流サイクリングツアーを催行した。(ツアー回数:6回、参加者:延べ65名)</li> </ul>			
事業効果		<p><input type="checkbox"/>まちなか活性化サロン「ぶらっと」を拠点に、まちなかでのイベント情報の提供や空き店舗情報を提供する事により、まちなかの活性化と創業・起業を目指している意欲ある方々の一助を担った。また、まちなかの歴史・文化の利活用を進めるためにまち歩きイベントを開催し、「まちなかを再発見する」をコンセプトにまちなか学を実施したことにより、地域の魅力を高めることができた。</p> <p><input type="checkbox"/>市民アンケート調査やアーケード整備に関する調査等を通じ、中心商店街の現状や課題を浮き彫りにするとともに、まちなかの価値向上に向けた取り組みを進めることができた。</p> <p><input type="checkbox"/>地域活性化を学ぶ学生、移住・定住を志す個人起業家などを対象とした「お試し居住」を体験する事により、より一層の移住・定住に向けた実現性の確保と意識の高揚が図られた。また、まちなかの回遊ツールを活用し、交流サイクリングツアーを催行することにより、今治市での働き方、暮らし方を体験し移住に向けた効果的な事業を実施することができた。</p>			

外部有識者からの意見	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維染色加工業の基盤強化事業において、人材確保のためには、これから育っていく小・中学生へ向けた取組が必要。</li> <li>・中心市街地活性化事業において、活性化に繋がる特効薬はすぐには見つからないと理解しているが、今後も、関係者から意見聴取をしていただき、まちの活性化に向けた取組をして欲しい。</li> </ul>	